

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 名前のユライを調べる。
- 2 ソザイの味を生かす。
- 3 自然のホウソクを知る。
- 4 心からセイイを示す。
- 5 米作りが盛んな地域。
- 6 胸の内を推察する。
- 7 養蚕業が減少する。
- 8 勉強の効率を上げる。

問二 次の文の中で、正しい使い方の語をア～ウから一つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 解決策を（ア 試行 イ 思考 ウ 施工） 錯誤する。
- 2 急激な（ア 機構 イ 気候 ウ 紀行） の変化に対応する。
- 3 きれいな庭園を（ア 作 イ 造 ウ 創） る。
- 4 風呂上がりに体重を（ア 計 イ 図 ウ 量） る。
- 5 方位磁石の針が北を（ア 指 イ 差 ウ 射） している。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本でスリッパ^Aといえば、明らかに「洋式」のものである。もともと「スリッパ」は英語であり、英和辞典で slipper をひけば、「室内用、舞踏用の軽い靴^{ぐつ}」などと書いてある。それが「洋式」のものとして輸入され、家屋や居住習慣の洋風化に伴^{ともな}って、急速に普及^{ふきゅう}していった。

しかし、スリッパの本家本元だと日本人が思っている西洋へ行ってみると、少くとも今日ではスリッパなどというものはまずどこにもない。玄関から靴のまま家の中へ入り、リッパ^①なカーペットを敷いた応接間にも靴のまま入っていく。

ホテルの部屋にもスリッパは置いてない。冷たい床^{ゆか}をはだして歩いたり、夜中に室外のトイレ（ヨーロッパの安宿は部屋にトイレがない）へ行くときは、いちいち靴をはかねばならぬ。近頃は海外旅行にスリッパを忘れないのが、日本人の習慣になった。

I スリッパは、洋風、洋式、という思いこみとはうらはらに、まさに「日本のもの」なのである。そして日本では、スリッパは驚^{おどろ}くほど多様化し、発達した。どんな田舎に行っても、スリッパは売っている。何が高級か知らないが、「高級スリッパ」というものもあり、けっこういい値段である。冬向き、夏向きと、季節ごとのスリッパがある。イタリアン・カットとかいって、先が細く尖^{とが}ったスリッパもある。^{*1} イグサで作ったりした「和風スリッパ」というのがあるのは、スリッパといえは洋風という思いこみを如^に実^{じつ}に示している。その一方、ヒヤツカテンなどに行くと、ピエール・カルダンとかランヴァンとか有名デザイナーのデザインによるスリッパもたくさん並べられている。フランスでこんなものを見た記憶^{きおく}はない。カルダンはわざわざ日本人向けにデザインしてくれたのだろうか？（ a ）

（中略）

ウイスキーの水割りをはやらせたのは日本人だとされているが、日本人はスリッパもはやらせているようだ。近頃は飛行機の中で、歯みがき、歯ブラシなどをいれた機内セットを配ってくれるが、あれには機内用のスリッパが入っている。おしぼりと同様、スリッパなしにはすまされぬ日本人のた

めだろう。ただし、エール・フランス機などではスリッパでなく、厚手の靴下である。やはりフランスはスリッパ文化の国ではないらしい。

日本でこれほどスリッパが発達したのは、やはり靴を脱いで家にかかる習慣のせいだろうか？ 欧米でも玄関にマットが置いてあるが、それは靴の裏の泥を落とすためである。日本の玄関マットとは相当に機能がちがう。(b)

かつて日本では玄関でわらじを脱ぎ、足を洗って、はだしで床に上がった。靴が普及した今日、もう足を洗う必要はない。II はだしで冷たい廊下を歩くのはあまりいい気分ではない。そこで「洋式」のスリッパが登場したのだろう。

それではスリッパは西洋での原義＊2どおり「室内靴」なのだろうか？ そうとも受け取られるふしがある。玄関でスリッパな高級スリッパをすすめられても、それをはいて歩くのは廊下だけ。ほんの二、三步歩いたら、カーペットを敷いた応接間だ。客はそこでスリッパを脱ぐ。あるいは脱ぐべきかどうか一瞬迷う。そしてたいていの人はスリッパを廊下に置き、素足になって応接間に入る。第二の靴を脱ぐのである。

しばらくすると、トイレへ行きたくなる。そのときはまたスリッパをはいて廊下を歩く。III トイレでまた別のスリッパにはきかえる。このスリッパにはたいてい可愛らしいムーミンか何かの絵がついている。もとの応接間に戻るときは、トイレの入口でスリッパをはきかえ、応接間の入口でそれを脱ぐ。

ぼくの知っているフランスのある建築デザイナーは、日本の家におけるこの度重なるスリッパのはきかえは衛生のためだと初め思った。まず汚れた靴を脱ぐ、というところから始まって、部屋の中を清潔に保つための習慣だと解釈したのである。

しかしその後、彼はこの考え方を変えた。日本人はそうやって履物をたえずはきかえることによって、自分が今どこにいるかということを意識するのだ、というのである。これが当たっているかどうか、ぼくにはよくわからない。たしかにそういう面もあるだろう。「土足で他人の家に上がりこむ」のがいかに礼を失したことか、日本人は十分に承知している。(c)

衛生のためという解釈は、おそらく的外れだと思われる。玄関で出されるスリッパは、前にだれがはいたものかわからない。ホテルの部屋に備えつ③けのスリッパだつてそうである。最近、大阪のあるホテルでは「洗えるスリッパ」を自慢じまんにしている。やわらかい真白な布製のスリッパが「消毒済」と書かれた袋ふくろに入っており、それを取りだして、裏側に固いプラスチック板を差しこんではくのである。これはたしかに衛生的だが、その一方、何もここまでしなくても……という気もしてくるのがふしぎである。(d)

とにかく、日本Eのスリッパとはふしぎなものである。洋式と思われるしながら、西洋にはない。わらじを脱ぐという日本古来の習慣から生まれた、日本独自の「洋風」文化なのだ。

(日高敏隆『春の数えかた』より)

*1 イグサ 植物。日本では古くから畳やゴザなどに使用されている。

*2 原義 もともとの意味。

問一 —— 線部①③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 —— 線部A「スリッパ」とありますが、筆者は日本の家で使用されるスリッパをどのようなものと表現していますか、本文中(中略)よりも後の部分から四字でぬき出して答えなさい。

問三 本文中 I III にあてはまる語句として適切なものを、それぞれあとのア～オから選んで記号で答えなさい。

- ア しかし イ そして ウ なぜなら エ つまり オ また

問四 — 線部 **B** 「和風スリッパ」とありますが、なぜ「和風」なのですか、その説明として最も適切なものを、あとの **A**、**E** から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** 日本にしかないイグサを使用し、西洋では決して作ることができないスリッパだと考えられるから。
- イ** 日本の有名デザイナーがデザインすることによって、西洋にはない日本らしさが生まれたと考えられるから。
- ウ** 日本でなじみのあるイグサを使用することで、西洋にはない日本らしさが生まれたと考えられるから。
- エ** 日本では都会でも田舎でも目にするほど、日本のどこにでもある有名なスリッパだと考えられるから。

問五 — 線部 **C** 「フランスはスリッパ文化の国ではないらしい」とありますが、フランスや西洋でスリッパがないのはなぜですか、その理由を説明した次の文の空白をうめるために、本文中より一文をぬき出して、そのはじめとおわりの **五** 字を答えなさい。

西洋では、から。

問六 — 線部 **D** 「の」と同じ使い方をしている「の」として最も適切なものを、あとの **A**、**E** から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** 教室に落ちていた消しゴムは**ぼく**のです。
- イ** あ**の**新しいマンガを君ももう読んだ？
- ウ** 今年**の**夏もむし暑い日が続いた。
- エ** 妹**の**笑っている顔を写真で残した。

問七 本文には次の一文がぬけています。この一文が入る部分として、最も適切な場所を本文中（ a ）～（ d ）から一つ選んで記号で答えなさい。

ぼくだって、昔、フランスへ行ったとき、靴のまま居間や寝室に入っていくのは大いに気がとがめたものだ。

問八 —線E「日本のスリッパとはふしぎなものである」とありますが、なぜ「ふしぎ」なのですか、次の言葉に続けて**六十字以内**で説明しなさい。
ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

普及 日本独自

日本のスリッパは、

六〇字以内

問九 本文の内容を説明したものととして、最も適切なものをあとの**A～E**から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** 世界中のどこを探してみても、スリッパを使う習慣が残っている国や地域はなく、日本しかスリッパを使わない。
- I** 西洋のホテルでは、部屋にスリッパを置いていないので、床をはだしで歩いたりいちいち靴をはかなければならない。
- U** 飛行機の中では、スリッパよりも靴下の方が暖かいので、エール・フランス機では厚手の靴下を配っている。
- E** 西洋人はスリッパなど様々なはき物をかえることによって、自分自身が今どこにいるのかを意識している。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歌うのが好き。

カラオケなんかも楽しいけれど、みんなで声を合わせて歌うのが、大好き。特に、コーラスは最高！

だから、合唱部の活動には、必ず出席する。お花見日和の春休み中だって、必ず行く。

ひとりひとりのいい声が重なると、ふわあっと音が響きだして、空気をふるわせながら不思議な色彩を生んでいく。

良いコーラスには、歌声が形になる瞬間があつて、目の前に別の世界が見えてくるみたいになる。といつても、これはわたしがそう感じるだけで、

他の人にはどう感じるのかわからない。わたしの実感として、コーラスは、額縁のない印象絵画のようなものだと思う……わけ。

自分の声がみんなの声に重なって、淡い絵を描きながら空気に溶けていく感じが好き。

歌っていると、生きてるぞーって感じがする。もちろん、イメージどおりにきれいな声が出たときは、特別に気持ちいい。

A わたしの唯一の問題は、大好きだけど、うまくないってことだ。いつもひとりだけ音はずしたりリズムを狂わせて間違えてしまう。

覚えが悪いのだ。覚えたはずなのに、歌い出すと忘れてしまう。体の中から自己流の旋律が出てきてしまう。

「はい、ストップ。Bの繰り返しのところからもう一度やってみよう」

部長が指揮棒で指示を出す。

X わたしのせいで、やり直しになったのだ。でも、部長の岩舟美香萌とは二年間同じクラスで仲良くやっているから、いつもがんばってくれる。誰かの失敗を責めるよりも、その時間を良い方向にのばす練習に回したほうがいい、という信条なのだ。

次こそは、美香萌のためにもうまくやる。気を取り直して張り切って歌い出したら、また間違えた……。

部長が指揮棒を止める前に、コーラスはしんとなる。

「高根沢先輩、二か月ずっと同じところで間違えますよ。無理そうな場所は、ロパクにしたらどうですか」

Z 新二年の足利樹莉愛に言われてしまった。

足利樹莉愛は、飛び抜けて歌がうまかった。知らない曲でも、楽譜を見た

とたんすぐに歌えてしまうし、小学三年の時には児童合唱団でソロを歌っ

た経験があるという。しかも、性格と違って顔はかわいい。自信があるから、人に対する言葉も強い。生意気だと反感を持っていても、実績も実力もある後輩に、誰も強く言い返せない。

歌の才能に恵まれないわたしは、足利樹莉愛のサンドバッグになっていた。

「えへへ。そうしたほうがいいみたい。ごめんなさい」

わたしは大げさに頭をかいてぺこりと頭をさげた。これ以上、雰囲気が悪くなるのはイヤだ。わたしが謝って話が終わるのなら、道化になってもかまわない。くだらない話し合いでみんなが歌う時間がなくなるくらいなら、たとえ

Ⅱ なんてダメよ」

岩舟部長が、怒った顔でわたしを見ていた。

目が、二年なんかに負けんなヨ、と言っている。美香萌は、上級生にずけずけと意見をする樹莉愛が気に入らないのだ。

「はーい。次の活動日までに、家で練習してきまーす。ということで、次、いつてみよう。サン、ハイッ」

わたしはピアノ伴奏の後輩に指を振った。

ちよつとあわてた指運びで、前奏が流れだした。

わたしはコーラスが好きだ。だけど、今の合唱部はあまり好きではない。

わたしが歌を間違えなければいいのだけど、わたしがいなくても波風はいつかたつだろう。あんな状態のなかに新生が入ってきたら、どうなってしまうのだろう。

大好きな歌を歌うために合唱部へ足を運ぶと、毎回ストレスにさらされる。歌っている瞬間は楽しいけれど、その他のときの居心地の悪さは、すべてを帳消しにする。イヤだからとひとりになってしまったら、コーラスは歌えない。わたしにはどうしても「みんな」が必要なのだ。

みんなのなかにとけこんで、気持ちよくしてきたい。みんなも同じ気持ちだと思う。なのに、波を立てずにいられない人って、いるんだよね。

帰宅してお菓子をやけ食いしてもむしゃくしゃした気分がなくなるときは、わたしは自転車を走らせて、区民プールへ行く。

そこは清掃工場のゴミ処理の熱を利用した屋内の温水プールで、誰でも一年中利用できる。夜九時まで開いているし、フィットネスマシンやジャ

グジーもあるきれいな施設だ。でも公共の施設だから料金は安い。小人は一時間たったの八十円。家からは少し遠いけれど、自転車に乗っている時間を準備運動だと思えば、苦ではない。

ひとりで泳ぎに行くのは寂しいし、恥ずかしい気がしたけれど、今では慣れてしまった。平日の利用者は水中ウォーキングや健康作りのためにひたすら黙々と泳ぐような大人が多かったから、わたしも大人と同じようにひとりで黙々と泳いでる。

プールに入ると、すつきりする。

ゆらゆら水にとけていると、イヤなことを忘れてしまえる。

水は、コーラスに似ていると思う。水に浸かって手足を広げてゆらゆらとするのは、歌声が空気に **III** 感じに、よく似ている。イルカみたいに歌いながら泳げたらいいのと思う。

(梨屋アリエ「水に棲む」より)

問一 ― 線部①③の語句や表現の本文中における意味として、それぞれ適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

① お花見日和

ア 花見をするための計画 イ 花見をするのに良くない天気 ウ 花見をするのに良い天気 エ 花が満開になる日

② 波風

ア 穏やかなこと イ もめごとが起こる ウ 嬉しいことが起こる エ 気持ちの良いこと

③ 帳消し

ア 差し引いてなくなること イ 差し引いて損をすること ウ 差し引いて得をすること エ さらに悪くなること

問二 ——線部A「わたしの唯一の問題は、大好きだけど、うまくないってことだ」とありますが、同じ内容で「わたし」が自分自身を評価している部分を本文中より**十字**でぬき出して答えなさい。

問三 ——線部X「わたし」・Y「岩舟美香萌」・Z「足利樹莉愛」とありますが、X・Y・Zの登場人物について説明したものとして適切なものを、それぞれあとのA～Kから**二つ**ずつ選んで記号で答えなさい。

- A 楽譜をみるだけで歌うことができるほど実力を持っており、児童合唱団にも参加していた。
- I ピアノ伴奏の後輩と仲が良く、ちょっとした仕草で前奏のタイミングを合わせることができる。
- U 場の空気が悪くなったり、居心地が悪くなると、おどけた仕草などでその場をおさめようとする。
- E 失敗を責めたりするのではなく、上手になるために練習の時間を使いたいと考えている。
- オ 自分に自信を持っているので、上級生に負けずけと意見を述べることができる。
- カ 言いたいことを負けずけ言う下級生が気に入らず、腹立たしく感じている。
- キ みんなで声を合わせて歌うのが好きで、合唱部の練習には絶対に参加している。
- ク 練習がきらいで、合唱部もさぼりがちだが、参加しているときはとても歌が上手である。

問四 本文中とたんと同じ意味の「とたん」を使って、短文を作りなさい。ただし解答には主語と述語を必ず書きなさい。

問五 本文中 **I**・**II** に入る共通の語句を、本文中より**三字**でぬき出して答えなさい。

問六 — 線部**B**「お菓子をやけ食いしてもむしゃくしゃした気分がなくならない」とありますが、わたしが「むしゃくしゃ」している理由を説明したものとして、最も適切なものをあとの**A**・**E**から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** 合唱コンクールで優勝を目指しているのに、今のままの実力では優勝できそうにないから。
- I** 歌の練習を家で毎日しているが、実力がつかず、練習がつらくて楽しく歌えなくなったから。
- ウ** みんなで気持ちよく歌いたいのに、一部の人のせいで気持ちよく歌うことができないから。
- E** 部員の中にも歌が下手な人はたくさんいるのに、わたしだけが責められるのが納得できないから。

問七 — 線部**C**「コーラス」とありますが、「わたし」は良いコーラスとはどのようなものだと考えていますか、本文中の語句を使って**六十五字**以内で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

重なる 額縁

問八 本文中 **Ⅲ** に入る語句として最も適切なものを、あとのア、イ、ウ、エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 浮いていく イ とけていく ウ にじんできていく エ 沈んでいく

問題はこれでおわりです。